



特別
千12
3643
31



梅若誠太郎
昭和元年
梅若重久
寄贈

合札

大内山は陰たり。雲乃上り玉殿を
と光りやみうく霞をく

和布川

秋意を雲井乃鷹をく光え也。たり玉
章中。乃関よりとよんしう海
も理りやく

酒玉母

廣記の真あは。君うたきと紙そ

と、いふおの母のふかしく

校舎

あ、先、き、り、と、し、と、う、は、し、て、校、舎、と、わ、り、
は、と、ね、た、い、ん、千、代、の、あ、の、い、や、へ、り、
い、た、い、ふ、ま、い、る、社、が、く、

久世戸

御、新、あ、ら、ま、さ、な、い、成、法、の、も、り、一、火、
く、ま、い、ら、ぬ、照、中、相、の、ひ、を、き、の、も、り、と、い、
い、

東方朔

な、し、く、福、系、た、文、通、と、り、年、乃、秋、た、し、
先、う、れ、く、

後成忠別

の、と、し、し、と、と、し、物、愛、の、志、心、奇、お、と、神、と、
御、文、乃、男、女、史、婦、と、妹、と、も、い、ち、の、情、を、

伏見山

萬、歳、と、よ、子、の、ま、い、る、御、新、も、あ、り、川、下、

志。依保乃山邊地春乃の海萬心乃也
かたよりりや

いんぎん

中河ありの海山を於たら次代乃也
しけてあをりきあふけまのほきま
也代首く

道明寺

宮路久し我瑞かきののぶりと抄を心也有
くく

大社

湯新法受多陽てなす。冥人おひ性
来れく

下 兼我洗

皆能上にあみるほの表の宣多法信長
下

履足

く之有はれある老の解と履足乃也
下 川地。水と岩袖也ほくあらん

大い山

山におよばぬ河のほとりよ
草の露の秋の山
子よ子よかきや
けりて草の露の秋の山
けりて草の露の秋の山

尾山

あはれと見ゆる花の露
あはれと見ゆる花の露

愛電

秋の風乃思陰と
秋の風乃思陰と

源史

真珠の次心
真珠の次心

野守

安んずる良夜
安んずる良夜

響

聲あやたかな
聲あやたかな

三ノ下 五ノ海子なり荒面白地地も無く

小鍛冶

甲戌也にて夫を以て道路系と申きり
 尊比御宇より由將場を巴川の端に

乙笑

乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下

室君

乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下

乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下

松心

乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下

現五帖

乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下
 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下 乙ノ下

清志撰

波静しく吹風の枝とありて
乃神代蔵述り有るや

竹の名

笠は名也
屋をひびきし電と
松さといふらん

こゝろ

はち車の下道をとくぬ大
の御新地園あるとは拙せ

得

た〜〜市にちよ〜
秋津も〜
氏時〜な〜
岩社
〜の〜
〜と〜
〜と〜
〜と〜
〜と〜
〜と〜

か〜〜の〜
あ〜〜し〜
神乃志あ〜
〜さ〜の〜
巻簡
〜の〜
〜の〜
〜の〜
〜の〜
〜の〜
〜の〜
〜の〜
〜の〜
〜の〜



